



座談会

荒浜の夏の音 四方山話

開催レポート

「耳の記憶／音の記録」では、ある地域で聞こえてくる音に着目して、その地域の宝（環境資源）を探し出し、それをより多くの人と共有することを通じて、地域の環境保全につなげていくための講座やワークショップを企画しています。今回は2021年8月8日（日）にせんだい3.11メモリアル交流館で開催した座談会『「荒浜の夏の音」四方山話』のレポートをお届けします。

仙台市若林区荒浜地区は、2011年3月に起きた東日本大震災で発生した津波によって、甚大な被害を受けた地区の一つです。大震災の前まで、約800世帯2,200人が暮らしていました。

太平洋に面していた荒浜地区は、その暮らしぶりが「半農半漁」という言葉で象徴されるように、海辺の暮らしも陸の暮らしも豊かに展開されていた土地でした。しかしながら、その姿を想像することが困難なほど、震災とその後の10年を経てこの土地は大きく変化してきました。そうした中で「音」に耳を澄ましてみる——その意義を、福島大学教授でサウンドスケープを専門とする永幡幸司先生は次のように語ります。

「音の聴こえ方は、とても個人的なものなんです。これまでの暮らしの中でどんな音を聴いてきたのか、それは一人一人違うのではないかと思います。今日は、それを〈共有する〉ことが大きな目的の一つです。この企画では、『荒浜の宝物』を残すことを目指しているのですが、宝物という価値のあるものにしていくためには、まずは〈存在に気づく〉こと、そして、それを価値があることを理解した上で、〈共有する〉ことが大事だと考えるからです。

皆さんご存じのとおり、荒浜は景色もどんどん変わり、音についても変化の途上にある地区です。

その中で、今聞こえている音を残そうと思ったら、今しかないんです。

そのためには、みんながどんな音を大事にしている、どんな音を聴いていたのかをお互いに知り合うことが基本だと思います。そこから始める中で、あの音は昔も聞いていたけど今も残っているとか、そういうことに気づくことも大事だと思います。荒浜の素敵な環境をいつまでも守り続けていくためには、宝物だと思っていることをみんなと語り合いながら『これが宝物なんだ』ということ伝えていく、次の人にその宝物のことを話していくということが大事なのではないかと思っています」

今回の座談会では、荒浜地区にお住まいだった方々にもご参加いただき、「私が夏の荒浜で聴いた音」を語っていただきました。「仙台湾鳴り砂研究会」の早川紘之さんからは、大震災の前から深沼海水浴場周辺で調査を行っていたという「鳴り砂」についてご紹介いただきました。

たくさんの「夏の音」に溢れた今回の座談会。聴こえなくなった音もありますが、耳を澄ませば聴こえる音もまだまだあります。皆さんが語ってくださった音のエピソードを持って、荒浜を散策してみたいはいかがでしょうか。

こんなに
集まりました！
荒浜の夏の音

まったく
鳴らなかった砂が、
震災から10年で
ようやく回復してきました。

キュッ
キュッ

「2003年に仙台湾鳴り砂研究会を結成して、定点観測をして砂浜がどのように変化したのかを記録しています。荒浜も2003年から継続的に調査しています。途中、津波に壊された海岸堤防再建のために海岸への立ち入りが禁止されたこともありましたが、2016年から調査が再開できました。でも、この時はまったく砂が鳴らなくなっただけですね。大津波の泥水からなかなか回復しなかったようです。しかしながら、年を追うごとに砂も元気になってきました。それは、きれいな海水で洗われてきたからなんですね。サラサラの状態を音で鳴らすと『キュッキュッ』と音がします。荒浜でもこのくらい砂が鳴っていることを知っていただくと、もっと砂浜が楽しめるようになるのではないのでしょうか」

(仙台湾鳴り砂研究会・早川紘之さん)

お嫁に来たばかりのころ、
波の音がすごく気になって、
夜に眠れなかった。
ところが、何年か経つと、
ぜんぜん気にならなくなるのね。

ザンザン
ザン
かいかいかわ

島崎藤村も『潮騒』で
書いてるよね。
昔は宮城野原の辺りまで
家もなかっただろうから、
聴こえたのかもしれないよね。

波の音なんて、
全然意識したこと
なんかない。
漁師の人くらい
じゃないの？

昔はもう、
浴びるように聞いていた(笑)。
田んぼには全部、
カエルが歩いていた。
ほんと、たくさんいたもの。

アマガエルは
季節になると鳴くよね。
ずっと鳴いてると、
そのあと雨に
なったりして。

今は堀も
少なくなったし、
昔と比べたら
鳴いてないなあ。

田植えが
始まった時の
ガマガエルの声も
すごかったよね！

ケコケコ

閑上大橋ができてから、
すごい音が
聴こえるようになったの。
うるさくってうるさくって。
荒浜の夜は街と比べて
静かだと思ってたら、
違った(笑)。

グオオ

満月の夜に
犬の散歩をしていて、
「ああ月がきれいだな」
と思っていたら、
どこからか太鼓の音が聴こえてきた。
ちょうど村祭りの日だったの。
今でも印象に残っていて。
素晴らしい体験だった。

神社が
三か所あって、
交代でお祭りを
やってたね。

荒浜には、
昔は青年団があって、
盆踊りとか
いろんなこと企画して
くれたんだよね。

ドン
ドン
ドン

仙台港ができて
貞山運河が封鎖される前は、
貞山運河の水はとてもきれいだったのね。
それまでは、貞山堀は遊び場だったの。
海に行く頃には
泳ぎが達者になっているから、
荒浜の人は溺れないの。

午前中は
貞山堀のほう
いいね。

波が強くなるから、
午後には海に行く。
午前中は
波が引くから静かなの。

ジャブジャブ

カッコウ

松林の中に
ウグイスがいて、
「ホーホケキョ」
とは鳴かないのね。
「ケキョケキョケキョ」
って鳴くの。
練習していたのかな？

カッコウの鳴き声は、
学校の裏あたりで
よく聴こえたよね。

ハトの鳴き声が多いと、
確かに天気
変化はあるよね。
天気が悪くなる時に
鳴くんだよね。
海を見に行くと荒いもね。

ホーホー
ホーホー
ホーホー

夏の荒浜レポート

2021年7月31日に、小学生を対象にしたフィールドワーク「海辺の音ハンティング！」を開催しました。荒浜に点在する自然資源のスポット（貞山堀、センターハウス近くの湿地帯、松林、深沼海水浴場）を巡りながら、聴こえてくる音に耳を澄まし、音とその時の情景を言葉で、そして動画で記録してもらいました。

快晴に恵まれたこの日は風も穏やかで、音を意識しながら歩くと、さまざまな方向からたくさんの音を聴くことができました。空を飛ぶ鳥の鳴き声、足元の固くなったヨシを踏みしめた時の音、松林が風に揺れる音、波の音……荒浜は海のイメージが強くありますが、その他にも豊かな自然資源があり、そこからさまざまな音が溢れていることに気づいたフィールドワークでした。深沼海水浴場では、荒浜に暮らしていた佐藤豊さんがスナガニ採りの実演を披露！あつという間に砂浜に穴を掘って砂ガニを手掴みする姿に、子どもも大人も驚きました！

最後に発表会を行い、見つけた音を聴き合いました。乾いた砂浜を歩いた時の「サクサクサク」という音、貞山堀のそばの笹が揺れる「ササササー」という音、松林の中から聴こえた「ピーヨッピピ」という鳥の鳴き声。拾った貝殻を鳴らして自ら「チャリチャリ」という可愛らしい音をつくった参加者もいました。

季節が違くと、環境も変わって聴こえてくる音にも変化がありそうです。「耳を澄まして歩く」という、荒浜の楽しみ方がまた一つ増えた機会となりました。



座談会 荒浜の秋の音 四方山話

「秋と言ったら運動会？キノコ狩り？それとも…？」

音の専門家や荒浜で生活していた方の話を聞きながら、音に着目し地域の宝（環境資源）を再発見する座談会です。今回のテーマは「秋の荒浜の音」。ぜひ、秋の音の思い出話を携えてご参加ください！

【日時】2021年10月30日（土） 13:30～15:30

【会場】せんだい3.11メモリアル交流館 1階交流スペース（仙台市若林区荒井字沓形85-4）

【定員】15人〔抽選〕小学生以下は保護者同伴 【参加費】無料

【申込方法】10月6日午前10時から電話またはEメールで受け付けます。「①参加される方全員のお名前 ②電話番号」をお知らせください。

◎申込先：仙台市環境共生課 電話：022-214-0013 / メール：kan007130@city.sendai.jp

令和3年度 仙台市生物多様性保全推進事業「耳の記憶／音の記録 荒浜四方山話」

主催：仙台市環境共生課、福島大学共生システム理工学類永幡研究室

企画：耳の記憶／音の記録 企画チーム 協力：せんだい3.11メモリアル交流館